

春海の寺

匠 瑛探訪

151

の成立時にはすでに村の共同墓地だったことが知られます。

コミュニティセンターの看板に「旧自勸坊」と書かれ、この場所が宗教施設であったことを伝えていきます。

徳川幕府は、1631（寛永8）年に新しく寺を建てることを禁止しました。しかし、新田村には「3社5か寺」の建立が1678（延宝6）年に許可されました。春海村にはこのうちの1社・水神社と1寺・修福寺が建てられ、水神社は無量院が管理していました。自勸坊は墓地管理などのため僧が住んだことでそう呼ばれたのでしょう。江戸時代の春海村にはこの他、大通寺、福善寺などが記録に見られますが、明治初年には廃寺となりました。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

春海区は、江戸時代、^{つばきののみ}椿湖の干拓により誕生した新田18か村の一つです。先ごろ、千葉島コミュニティセンターのある場所が寺跡のようだが、と

のお尋ねがありました。1670（寛文10）年に始まった干拓事業は、その4年後（延宝2年）から新田が売り出されました。それを求めた農民

が集落をつ

くり、22年

ほど経った

1696

（元禄9）

年に春海村

が成立しま

した。こ

の時の「検

地帳（土地

台帳）」に、

修福寺、無

量院、水神

社とともに、

千葉島の墓

地（1畝16

歩）の記載

が見られま

す。

お尋ねの

場所は、村



春海の自勸坊跡。奥は千葉島コミュニティセンター

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080